

じょうこうじ

掟光寺だより

令和5年
2月号

行事案内

●2月6日(月)
「お日待ち講」

13時30分から



節分・立春・旧正月の違い

「結論」

立春と旧正月は別もの。立春の前日を節分という。節分の豆まきは追儺という行事から来ている。

「解説」

立春というのには「二十四節気」(一年を春夏秋冬の4つに分け、さらにそれぞれを6つの時期に分けたもの)の一番最初の節気です。毎年二月四日になるのが一般的です。

二十四節気は古代中国で編み出され、かつて中国では国王が季節を司り、王の宣言によって春が始めるものでした。そのため、王が「春を立てる」と書いて、立春と呼ぶようになりました。



よく立春とごっちゃになりやすいのが、旧正月です。旧正月は旧暦の1月1日のことで「春節」ともいいます。立春は太陽の黄道上(太陽の通り道)の動きをもとにした暦であるのに対し、旧正月は月の満ち欠けをもとにした暦なので、そもそも根本的な考えに違いがあります。

しかし、立春と旧正月が重なることもあるようで、「朔旦立春」と呼ばれ、とても縁起がいいと言われています。前回は1992年だったそうで、次は2038年に訪れるそうです。

旧正月は東アジアの国々(中国、韓国、台湾、ベトナム、マレーシア、インドネシア、モンゴルなど)ではよくお祝いされます。しかし、日本だけは旧正月を祝いません。これは、明治時代で欧米文化を積極的に取り入れたため、旧暦から新暦に切り替えたからだと言われています(※諸説あり)。また、日本でも沖繩や南西諸島では今でも旧正月を祝う文化があります。



節分は立春の前日を指します。節分とは名前の通り、「季節を分ける」と書きます。そのため、節分は実は4つあり、立春に限らず、立夏、立秋、立冬の前日も節分があります。立春の節分は旧正月と近いこともあり、ほかの節分より重視されたため、今では「節分＝立春の前日」になりました。

現在の太陽暦だと2月初めですが、旧暦では12月もしくは1月の年もあり、節分は正月行事でもあり、今という大晦日の存在に近いですね。

季節の変わり目には陰と陽の気がせめぎあいをして、邪気を生じさせ、災いと呼ぶと考えられていた

ため、それを払い一年の無病息災を願う行事ができたわけです。

節分で鬼に豆まきをするという文化は元々古代中国の宮中行事で大晦日にやっていた「儺」という行事(疫病を流行らせる悪神を追い払い、福を招きいれる祭り)が元になっていきます。それが日本に伝わり、「追儺」として宮中の年中行事に取り入れられました。

追儺では、宮中の役人たちが「方相氏」と呼ばれる厄払い役とその手下に扮し、大きな掛け声とともに宮廷内を駆け回りました。それを他の貴族たちが弓を放ったり、振り太鼓を振って、鬼を追いかう方相氏を応援をしたそうです。

日本では室町時代には追儺の風習が一般庶民にも定着したとされ、「鬼は外、福は内」と唱えながら、豆まきをしていたという記録が残っています。そして、江戸時代には現在のように節分に豆まきをするという文化が完全に定着しました。

「鬼は外、福は内」と唱えるのが一般的ですが、九鬼家という古い豪族の家では「鬼は内、福は内、富は内」と唱えるそうで、地域や場所によつては掛け声も異なるようです。

